

平成 18 年度包括外部監査結果報告書の要旨

公認会計士 小橋 政彦

1 外部監査の対象

「岡山市市場事業の財務に関する事務の執行及び経営に係る事業の管理について」

2 この事案を選定した理由

- (1) 食品の産地偽装や生産日の改ざん、鳥インフルエンザの問題など食の安全に関する消費者のニーズは高まっており、岡山市中央卸売市場の果たす役割は、公共性、公益性ともに依然として有るといふべきである。しかし、出荷団体の大型化や産地直送の増加、大型スーパー等の増加による食品の供給ニーズや消費者ニーズの多様化等により市場外取引や直取引が増大していることから、全国の中央卸売市場の取扱量及び取扱高は、長期的に減少傾向にある。岡山市中央卸売市場においても例外ではなく、最盛期の平成 3 年度には、取引高が 954 億円あったが、平成 17 年度には 627 億円まで減少している。岡山市中央卸売市場の収入は取扱高に依拠している構造となっているので、収入も減少傾向にある。
- (2) 岡山市市場事業の損益計算書をみると、「営業外収益」に恒常的に約 2 億円を超える「他会計補助金」が計上されている。これは、一般会計から岡山市民の税金が恒常的に市場事業に投入されていることを示している。岡山市の一般会計自体が財政難にある状況下では、市民の観点からすれば、岡山市中央卸売市場が従来のみで良いとは到底考えることはできない。岡山市中央卸売市場は、平成 14 年度から全国の中央卸売市場の中で唯一地方公営企業法を全部適用しており、先進的な改革に取り組んできたが、現在ではその改革は必ずしも成果をあげていない。平成 21 年度からいわゆる手数料の自由化が実施される見込み

であり、有効な対策を講じないと岡山市中央卸売市場の経営が困難になる可能性がある。

(3) 以上の次第で、

先ず、

ア 会計監査的視点及び業務監査的視点から、岡山市市場事業の財務に関する事務の執行が関係諸法令等にしたがって適切に遂行されているか。

イ 経営に係る事業が経済性・効率性・効果性の観点から適切に行われているかを検討すること、

次いで基本に立ち返って、

ウ 行政監査的視点から岡山市中央卸売市場が今後とも持続可能であるか、持続可能なためにはどのような業務改革が実行されるべきであるか。

エ 過去に岡山市中央卸売市場に関して提言された「岡山市中央卸売市場改革基本構想・基本計画」（以下、「基本構想」）が果たして実行されているか、を検討することが必要であると判断し、包括外部監査の対象として選定した。

3 監査の結果及び意見の要旨

(1) 岡山市市場事業は、地方公営企業体として自立すべきであり、黒字化を目的とすべきであるとの観点から、現在の収支の内容、経営計画の有無、その内容を監査した。

そして、独立の企業体として、「岡山市民の負担というべき一般会計からの恒常的な繰入金約2億円超を遅くとも5年間で全廃することを実現すべきであり、これはほぼ不可能でないからこれを優先すべきである。」という仮説をたてて検討した。

(2) 監査の結果、大略、次の問題点があり、この改善によって約1億7,000万円の収支の改善が可能であると判断した。

ア 市場使用料

市場使用料が「岡山市中央卸売市場業務条例」（以下、「条例」）で定めら

れている1,000分の3でなく、長年にわたり1,000分の2.6とされているが、1,000分の3は他の市場と比較検討しても高値というものでなく、これに戻すという改善を行なう必要がある。この改善によって約2,454万円の増収が可能である。

イ 空き店舗等

市場内には空き店舗等が相当数あって有効利用されていない。市場の魅力の問題にも関係するが、この改善によって約3,400万円の増収が可能である。

ウ 駐車場

市場内の駐車場料金について、受益者負担の観点から値上げ、無料部分の有料化による増収の余地がある。この改善によって約200万円の増収が可能である。

また、駐車場について、満杯化による増収を努力すべきである。この改善によって約145万円の増収が可能である。

エ 委託費

設備関係委託契約費用の金額について競争入札を徹底するなど見直しが必要であり削減の余地がある。この改善によって約2,000万円の経費の支出削減が可能である。

オ 手数料

市場内から発生する一般廃棄物の処理手数料について、市場事業部の負担の適正化・見直しを行う必要がある。この改善によって約2,695万円の経費の支出削減が可能である。

カ 負担金及び分担金

場内清掃負担金について、適正化・見直しを行う必要がある。この改善によって約1,465万円の経費の支出削減が可能である。

キ 人件費

岡山市からの出向者を減らし人件費を削減する余地は多い。早急に10名程度を削減することによって約5,000万円の経費の削減が可能である。

しかし、上記改善の実現のためには、関係者の協力が必要であるし、約1億7,000万円の収支改善が限度ということも指摘した。

(3) 上記改善を実行する体制が確立されているか監査した結果は、次のとおりであった。

ア 岡山市中央卸売市場では、市場開設運営協議会の審議を経て平成 17 年 3 月に「基本構想」が策定されて、岡山市中央卸売市場に関して有益な提言がなされている。監査人としてこの「基本構想」の内容は、ほぼ妥当と理解でき推進されるべきだと判断した。

イ しかし、市場事業部において、上記の「基本構想」に基づいて「実施計画」を作成して実行してきたが、この「実施計画」には、

- ① 数値目標を設定していないため達成すべき具体的な目標が明確でなく、意識改革・言葉だけの改革提言にとどまっている点が多い。
- ② 約 50 の課題があり、総花的であって改革への実行力を弱める可能性が大きい。
- ③ 「検討中」ととどまるものが多く、管理指標となりきれていない、という問題があり、改善を実行する体制として十分でないことを指摘した。

ウ 岡山市市場事業は地方公営企業であり、独立採算、黒字経営を目的とすべきことは言うまでもないから、この目的を実現するための「経営計画」が策定されるべきことは当然のことであり、策定は市場事業管理者（以下、「管理者」）の責任であることを指摘した。

更に具体的に、

- ① 管理者の業務執行は単なる過去の継続であってはならない。
- ② 管理者はどのような執行の推進体制であるべきかを評価点検すべきであり、その方策として現在の管理は「PDCAサイクル」で行うべきである。
- ③ 管理者自身も過去の自らの実績を提示して管理者としての業績評価を受ける必要がある、
ことを指摘し、平成 14 年 4 月 1 日に地方公営企業法を全部適用してから既に 4 年以上が経過した現時点で「経営計画」が策定されていない遅れは問題であることを指摘した。

(4) なお、岡山市からの出向者を減らし人件費を削減するとの点に関して、公務員による守衛の早期廃止を筆頭に人件費の削減は約 5,000 万円としているが、

管理者の決断で岡山市からの出向者を最終的に最大限3人程度にすれば、人件費の削減は更に約5,000万円が可能で合計約1億円の削減は容易であること、他の都市の第3セクターの市場の事例に照らして不可能でないことを指摘した。

(5) 岡山市中央卸売市場の収支の問題点として、青果冷蔵庫使用料及び水産物冷蔵庫使用料が、「条例」に比べ約1億2,000万円も軽減されているが、この本来の冷蔵庫使用料が得られていれば、人件費の削減の実行と総合すれば現在の「一般会計繰入金全廃」も可能なはずであり、冷蔵庫の問題の改革の必要性を強調した。

(6) なお、岡山市市場事業会計の現状では、多額の資金を必要とする投資については、将来の回収可能性を考慮して慎重に判断する必要があると、市民や学識経験者が委員となっている市場開設運営協議会のテーマとしてとりあげて意見を聞く必要があることも指摘した。

(7) 管理者として経営計画を早急に策定し、改善策をいろいろ検討・実行しても、収支の改善は2億円程度が限度であってこれ以上の改革が困難となり地方公営企業として黒字化・自立化がほぼ永久にできないというのであれば、改めて組織の見直しを含む抜本的な解決策を提示すべきである。

そして、その回答は平成17年度に既に「基本構想」で民営化の検討をすべきことが明示されているように市場の民営化であると監査人も判断している。

民営化の具体的内容として、公設民営化及び第3セクター化等が考えられるが、第3セクター化の場合であっても岡山市がどの程度の株式を保有するかということ、つまり行政としての関与すべき程度は、食の安全の確保という公益、行政の観点に照らして決定すべきである。

管理者は、解決策を提示し、それが上述した民営化ということしかないのであれば、早急に市長、市議会、ひいては市民に説明することが必要であり、平成21年度のいわゆる手数料の自由化もあり、その時期は既に到来している。

(8) 監査人としては、民営化を実現したら直ちに黒字となることを保証することはできないが、岡山市の一般会計からの税金の投入をこれ以上続けることによって、将来的に岡山市中央卸売市場が持続可能だという保証をすることはもはや困難であり、現在のような多額の税金の投入を継続することは卸売市場法改正の方向に逆行し、まず不可能だということを関係者が認識する必要性があることを強く指摘している。

危機を直視して市場関係者は、平成 21 年度の手数料自由化を目処として 3 年以内の民営化への転換を本気で実現する取組を開始することが期待される。

以上